



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

掲示板法話

ある時も ない時も 同じように

暮らす そんな日々でありたい



今年の新春、広島県にお住まいの朋友から「一年の計」としたい、きらりと光る年賀状をいただきました。

「『お金のある時もない時も同じ暮らしをするように』と教えられてきました。感うことなく、日々のおつとめ、聴聞に励み、きちんと暮らしたいと思えます。」(呉市・本田和子様より)

忙しい世渡りの重荷を背負いながらも、この方の実に落ち着いた、腹の据わった自然体の生き様が言葉の背後からやわらかく、そして確かさを伴いながら伝わってきます。

翻つて、我々は「ある時もない時も同じ暮らしをする」ことができるでしょうか？お金のあるときは、高上がりして贅沢三昧の暮らしをするのが人の常でありましょう。しかし、ひとたび苦境に立たされれば人を恨み、世の中を怨んで愚痴のとりこになることが多いのです。

また、健康な時は達者自慢をするけれど、ひとたび健康を損ない、病に泣く

(呉市・本田和子様)

時、元気な時と同じように、日々のお勤め、聴聞に励むことなど、到底できそうにありません。そんな自分自身を照らし出されたような身震いを覚えま

「仏法を主とし、世間を客人とする」生き方を忘れずに、今も両親から授けられた教えを人生の道標として

日々の生活を営んでおられる本田さん。そのように、仏法を拠り所とする家庭教育に心を砕いてお育てになった「両親やご先祖方の尊い仏法相続の歴史が偲ばれます。」

「前に生まれんものは後を導き、後に生まれんひとは前を訪へ」

との道綽禪師のお言葉を親鸞聖人が讃えておられる、そのままの麗しい人間関係を示されたような喜びを感じます。

☆行事ご案内☆

春季永代経

3月21(土)日午後1時半・夜7時半
22(日)日 午後1時半



講師：久堀勝敏師(奈良)

※お経開きは3月21日(土)午前10時半より

◇三全仏教婦人会総会：20日(金)夜7時 善正寺

※予告4月11日(土)午後三重組門徒研修会、善正寺於

♪三重組コーラス♪

※3/5(木)午前10時半・陽光苑誕生会慰問26回目
※3/28(土)夜7時半練習、「光あふれて」「しんらんさま」

◇キッズサンガ

3/7(土)午後4時お経・ゲーム・お菓子誰でもOK

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索『新着情報

『住職と坊守のつれづれ日記』おススメ！ほぼ毎日更新。
何でもご相談お気軽に。仏事以外のことで結構です。お返事します。

生きている限り、悩みが消える筈がありません。だからこそ、自分を支えてくれる人と出会い、わが「かけがえのなさ」に気づく喜びもまた深いのです。一人ひとりが交換可能な部品ではなく、「かけがえのない私」と目覚めなければ、人間に生まれた甲斐がないのではないのでしょうか。

☆名古屋で本願寺展：開催☆

四月十八日～五月三十一日まで
名古屋博物館(瑞穂区瑞穂通)

☆五木寛之さん講演会☆

四月二十四日(金)午後三時、名古屋市公会堂(鶴舞公園内)。整理券必要(朝日新聞社名古屋企画事業チーム・五木寛之講演会係宛往復葉書(住所・氏名・年齢・二人)申込。

☆季節のアルバムから☆



2009.2.11 猿猴を弾いて歌う陶器、私に似てる？



2009.1.30 泉坂山麓池にカワセミ登場！ 撮影者 菅野氏撮影 父娘を都子鳥

上・楽器を弾きながら歌う陶器のお雛様(庫裏・玄関の棚に飾りました)
下・垂坂公園の池に現れたカワセミ(別名 服部香苗様撮影)

坊守スケッチ

絆の再生は歌声運動から

文芸春秋三月号で作家の五木寛之氏と宗教学者の山折哲雄氏が「不況と親鸞・他力の時代が来た」と題して対談している。その中で興味深い部分を紹介しよう。

「親鸞の生きた十三世紀は天候不順で、大地震や疫病のために、何百万もの人々が亡くなった。京都にはうず高く死体が積み、人が犬を食い、犬が人を食い、ついには母親が子供を食う。親鸞はこれを武者の世と嘆いている。現代の子殺しとも似ている。まさに現代は親鸞の生きた末法の時代と同じ。アメリカ発の百年に一度の世界的経済危機は、景気は循環するのだから日本流の『無常』であり、『盛者必衰の理』を表すものだ。アメリカの企業家が、神の存在を忘れて貧しい人を騙してマネーゲームに狂奔した結果が原因。自力社会に行きつまった今こそ、親鸞の『他力の教え』が目される。三十五歳で越後に流された親鸞は、日本海に沈む夕日を見て、浄土をイメージした。愚禿親鸞と名乗り、最底辺にいた人々に、いつも心を寄せていた。」

ところで中日新聞に連載中の『親鸞』にも登場したが、少年時代の親鸞は歌が上手く、後白河法皇が主催する大音楽法要で、今様を歌い、聴衆も感動して大合唱する場面があった。

「親鸞の時代の仏教儀式には、音楽が

つきもの。念仏でも導師が歌いだすと、堂衆が輪唱し、最後は聴衆全体が和して大合唱。リズムも七五調の今様に変わり、底辺層の人々にも馴染みやすい流行歌のようだった。拍子をとりながら歌うことは、当時の人々には宗教的な喜びだった」と五木寛之氏は語る。

晩年親鸞が「和讃」の著述に心血を注いだのは、仏の教えを人々の心の中に分かりやすく浸透させたかったからではないか。それには誰でも歌えるように今様のリズムに乗せて、広めようとしたのではないかと、私は思いを巡らせた。それならば「三重組コーラスで歌う仏教讃歌は現代の和讃！」だと気付いた。仏教讃歌の歌詞の中には、難しい仏教語の解説よりも、私の心にピタッとくる言葉が数多くある。

いま団塊世代を中心に、新しい人の絆を求めて、『歌声喫茶』が四十年ぶりに復活する兆しがある。家族はバラバラ、会社は先行き不安定、世代間の絆がズタズタに切られ、寂しい人が溢れる時代に、歌声で人の輪が広まり、連帯感が生まれるからだろう。

お寺のコーラスも、宗教的な喜びや連帯感、安心感に包まれる。心の悩みを抱えた人同士が語り合い、仏教讃歌を歌うことで救われるならば「お寺の新しい絆の再生」ではないだろうか？



二年後の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要も半分は音楽法要で勤まる。皆さんの歌声をお御堂に響かせよう！

☆寄稿

四日市市 川崎孝一
胸に飾りて 盛装の
孫ら卒業 バンドも囃す

☆めおと楨 庫裡前に来て根付くなら
精気下さい 老いの夫婦に

☆生き様は 人それぞれ 死に様を
云々の吾 図々しくも

☆月に一度 届く寺報は 温かく
光となりて 我を包む

☆三重組コーラス

※三月五日(木)午前・陽光苑慰問

※三月二十八日(土)夜七時半 練習

(その後の練習予定)

※四月二十五日(土)夜七時半

※五月二十日(水)午後一時三重組仏

婦総会(西坂部覚照寺)出演

「光あふれて」しんらんさま」音楽法要

※六月二十七日(土)夜練習

◇七月二日(木)名古屋別院音楽祭

「光あふれて」三重組単独ステージ歌

☆ホットニュース

☆善正寺のホームページが公開！仏事に
関する相談、お悩み等気軽にお寄せ下
さい。「三重 善正寺」で検索可。

※「住職と坊守のつれづれ日記」がおスス
メ、好評！ほぼ毎日更新。過去の日記
も右横にある Archive(アーカイブス)
2008・該当月をクリック。カレンダー
方式で出てきます。おかげさまで開設
六か月、二月下旬でアクセス数が五千
回を突破！今までお寺と縁がなかつ
た方や若者、子供の訪問に感謝。

◇三月一日午後、坊守が鈴鹿組門徒総
代会研修会(津市芸濃町文化センタ
ー)講演、昨年十一月三重組研修会ベ
ースに写真等内容パージョンアップ

◇加藤幸子先生よりお誘い「五月四日
午前津正覚寺様・午後松阪善覚寺様で
『聞法の集い』講師岡本法治師・広島」

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇三月七日(土)午後四時より
お経・ゲーム・紙芝居など。お友達誘
って来てね！

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第一八三号をお届けし
ます。◇対岸の火事のように見られて
いた金融危機が日本にも急激な勢いで
波及、長いトンネルに入ったようです。

◇しかし、ご先祖方も大変な苦難の時
代を乗り越えて命を私共に相続して下
さったことを思い起こし、忍耐強くこの
難局を生き抜きたいと願う。◇小説

「親鸞」いよいよ佳境、「愛読を。合掌。

お悔やみ申し上げます★

★川崎日出機(別名九十歳)二月十五
日(七)

合掌

今年は丑歳、年女の私はもうすぐアラカン(あら還暦)を迎える。五十肩に悩みながら忍び寄る老化現象と闘っている。夏目漱石が弟子の芥川龍之介と久米正雄に宛てた手紙が面白い。「篤そはいけません。頭を悪くしてはいけません。根気よくお出なさい。世の中は根気の前に頭を下げる事を知っています。が火花の前には一瞬の記憶しか与えてくれません。うんうんと死ぬまで押すのです。それだけです。決して相手を痛^{いた}めてせんを押しちやいけません。相手はいくらでも後から後から出てきます。我々を悩ませます。牛は超然として押して行くのです。何を押すかと聞くなれば申します。人間を押しすのです。丑歳の私にはピタッとくる心の響きがあった。自分の思い通りにならないと相手が悪い。世間が悪い。社会の仕組が悪い」と責任を回避していた。誠意を持って根気よくすれば何かが変わる筈だ。自分が汗をかかないで苦勞しないで他人がやってくれるのを待っているだけでは寂しい。自分だけの気分になり楽しむ木ハサンには足りたくない。子供や孫に何かを伝え共に喜びを分かち合う仲間作りをしたい。還暦を前に私の夢をお伝えした。とこちで三月の予定として21(土)午後、夜22(日)午後「永代経」をお勤めする(講師久堀勝敏師、奈良)。20日(金)夜は三全仏教婦人会総会(善正寺)三重組コラス(は)夜(土)夜。三月は卒業と旗立ちの季節。お世話になつた人への「ご恩」と「感謝」を忘れず新しい出会いの「縁」を大切に日々精進したい。花粉症の季節。自愛下さい。

平成二十一年三月

善正寺坊守 拝合掌